

「警戒区域等からの車両持ち出し基準」 に関する新潟県試算の概要

2011年8月

聞き取り・作成：中山均（新潟市議）

経緯；柏崎GSの洗車汚泥から高濃度の放射能検出

- 本年7月、柏崎刈羽地域のGSから相談を受けた原発反対団体が独自に調査したところ、洗車汚泥から高線量を計測。



- この指摘を受けて新潟県が調査、県内ガソリンスタンド(GS)7カ所の洗車場の汚泥から、1キログラム当たり最大で9万Bqの放射性セシウムを検出。GSの汚泥でのセシウム検出は全国で初。

経緯；柏崎GSの洗車汚泥から高濃度の放射能検出

- 柏崎刈羽地域の4カ所では最高9万から数千Bq/kgの放射性セシウムを検出。新潟市では約170～520Bq/kg。
- 福島からの車両や福島で作業した車両の汚泥由来と推測されている（原発立地である柏崎は福島との人的・物的交流があり、避難者数も新潟県内の中で多い）。
- 新潟県は国に適切な管理方法・基準を設けるよう要請中。

参考：新潟県HP

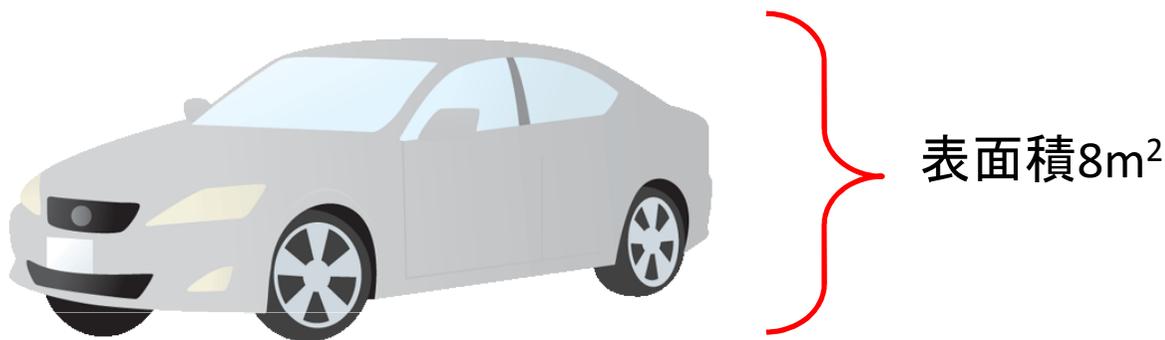
http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/116/889/110808car%20youbou.pdf

新潟県の「試算」

- 新潟県は「警戒区域等からの現行の車両持ち出し基準では、基準をクリアした車両1台でも、今回検出された程度の放射性物質に相当する量が発生する可能性」を指摘。
- この試算根拠については公式には公表されていないが、原子力安全対策課への聞き取りにより明らかになったので、今後の参考ために整理しておきたい。
以下、文・編集責任は中山。

新潟県の「試算」

- 「警戒区域等からの車両持ち出し基準」は、13000cpm。
- 車両検査に用いられている検出器の固有の効率換算で、 $1\text{cpm}=3.5 \times 10^{-3}\text{Bq}/\text{cm}^2$ 。
- 仮に「基準」の半分程度の放射能を有する約6000cpmの車両（一般に車両の表面積は 8m^2 程度）を想定。



- これに均一に泥が付着していると仮定。すると $6000\text{cpm} \times 3.5 \times 10^{-3} \times 80000 = \text{約}168\text{万Bq}$ （放射能総量）。

新潟県の「試算」

- 前ページより、試算結果：車両の放射能総量**168**万Bq。
- 今回最高値を示したGSの汚泥(9万Bq/kg)の総重量は15kgなので、放射能総量は $9 \times 15 = 145$ 万Bq。
→「**基準をクリアした車両1台でも、今回検出された程度の放射性物質に相当する量**」が発生する可能性があることになる。
- なお、これが福島車両の差別などにつながらないよう、指摘しておきたい。こうした被害の処理を住民やGSや自治体に押し付けている国や電力の責任である。